

～山座同定～^{かんりがるほ} 崗日嘎布山群 未知のラグ氷河を探る

井上達男

ACKU News 37号に「未知の東南部に迫る」と題して崗日嘎布山群(Kangri Garpo Mountains)東南部の主要ピークの同定を試みた。そこで述べたように山群全体の同定については Japanese Alpine News 2011(日本山岳会)に投稿した英文がある。それに対してより詳しく日本語で解説したものを37号に掲載した。本稿はその続きである。

米国の山岳雑誌 Appalachia [Summer/Fall 2012] (注-1) に Japanese Alpine News 2011に掲載された「Kangri Garpo 山群研究」についての書評が掲載されている。「Scholarly Mountaineering(学究的登山)」と言う表題で未知の山群の解明努力について高く評価した記事となっている。ACKUの未踏峰登山の伝統的なスタイルが評価されたことであり誇らしくもあり、遠征の成果は広く世界的に発表していくべきだとの思いを強くした。記事の英文は acku.net

(<http://acku.net/acku.net-Appalachia-2012Summer-Fall/Appalachia-2012-SF.html>)を参照願いたい。参考

までに日本語訳を以下に示す。

Scholarly Mountaineering (学究的登山)

東チベットの探検登山は現在ほぼ完全にストップされているが、そこにある何百ものほとんど知られていない山々の時として混乱した山脈地形の学究的な解明そのものを止めることはきませんでした。神戸大学アルパインクラブ(ACKU)の井上達男(ティム)は、インドアクライマー(armchair mountaineer)ではありません。彼は、2009年に広大な Kangri Garpo 山群の中で初登頂を成し遂げた遠征隊の隊長でした。今日、彼は何百もピークが存在する山群の、特に主な 6,000m 峰の山座同定を実施しました。

Kangri Garpo は北西の通麦から南東の四川省境界近くの察隅にかけて、およそ 280km の山脈です。既知の唯一の登山は Lopchin Feng(6,805m 山群の第2の高峰)で、2009年の登攀です。(Alpina, Appalachia, Summer/Fall 2011, LXII no.2, page 121 参照)。

今まで、ほとんどの山は登られていなかったと同時に無名でした、また位置と標高は不確かでした。井上は、このギャップを満たすのに大いに役立つドキュメントを提示しました。(Japanese Alpine News, Volume 12, pages

104-131 参照) 今時、グーグル・アースや衛星技術を使った彼の仕事は単純なことだと考えられるかもしれませんが。しかし、それは、事実ではないと分かりました。井上は古いソビエトの地図および中国の人民解放軍の地図に加えて、グーグル・マップ、グーグル・アース、および他の技術、ASTER, SRTM などあらゆるアルファベット略語のデータを使用しました。不運にも、彼は最新の中国版地図にアクセスしませんでした。

作業プロセスは、何百もの主に遠隔・未探検の山群の高さおよび位置を確立する骨の折れる努力でした。明確な ID (井上は「KG 番号」を使用)を付け、イメージを集めて写真集とし、以前から名前が存在する場合、地図位置に名前および KG 番号を関連づけています。この努力について井上は、4つの ACKU 遠征および、彼が記述している長い調査者リストにある人達によって得られた写真を蓄積しました、もちろんリストのトップには中村保の名前があります。写真集は、フ

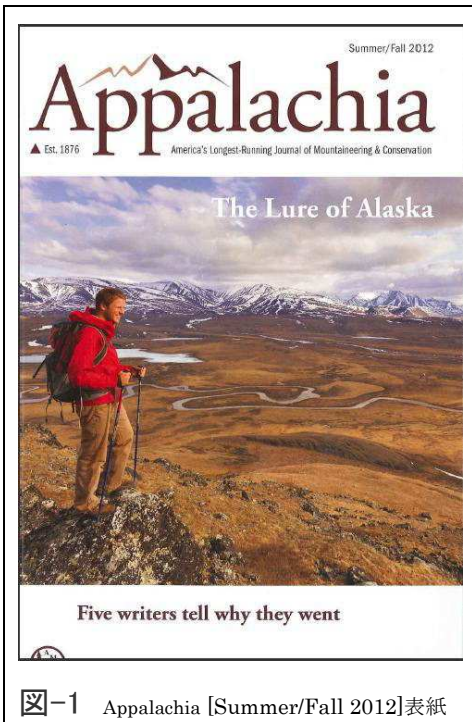
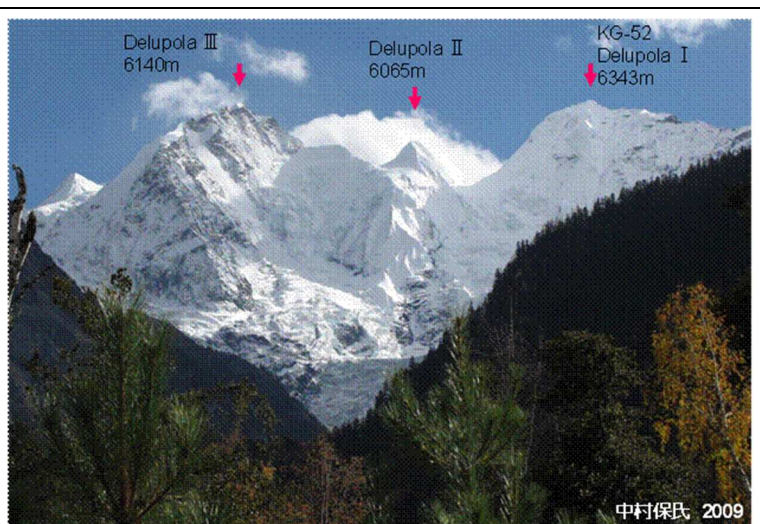


図-1 Appalachia [Summer/Fall 2012]表紙

ラング・キングドンウォードによって1933年に唯一得られた写真を組んでいます。(彼の能力なのか、または運なのか、驚いたことにキングドンウォードは、Ruoni(280kmの山脈全体の最高峰)を撮影しています。)

井上の観察では、「ASTERとグーグル・アースから抽出された全てのデータは、尖ったり幅が薄い頂上構造を持ったりするピークは実際よりかなり低い高さを示す、・・・そして重厚な形のピークあるいは丸形ピークでは実際より少し低いデータとなる。」となっている。したがって、彼は次の仮説を立てた。「衛星調査から抽出されたデータはすべて[実際高度]より低く表示している。」



写真説明:中村保: 井上達男は遠隔地で未探検の山脈であるチベットのKangri Garpo山群中の何百という山々の同定と標高確定のために利用可能な衛星および他のデータを使用している。この画像は彼の仕事例です。Delupola山群の3つの6,000m峰です。KG番号は彼自身の発案である。

り低く表示している。」

この結論については議論する人もいますが、しかし、ヒマラヤ山脈のグーグル・アース・イメージを同じピークのよい写真と比較する人は誰でも、明白な平滑化結果に気づくでしょう。

井上の主な作品は、6,000m以上のKangri Garpo 47座の表です。(Kangri Garpo 6,000ersの数はこれまでの評価では30でした。)表は各ピークのKG番号、緯経度(分、秒まで)、最良の評価標高およびもしあれば名前をリストします。ほとんどの登山家は、「いままで誰も聞いたことの無い」山に対して関心がありません。もっと強い理由は、位置と高さが未知であるから興味が無いということ。したがって、このリストは、恐らくこれからしばらくの間Kangri Garpo登山の指針となるでしょう。

--- Issued by Jeffery Parrette, Alpina (編集者)

(注-1)Appalachia Mountain Club: 米国東部を中心に活動しているAMC(Appalachia Mountain Club)。135年以上雑誌発行を継続している。

さて、本稿が対象とするラグ氷河(拉古,Lhagu Glacier)はアタ氷河(阿扎 Ata Glacier)とともに崗日嘎布山群の中心域を形成する東チベット随一の氷河地帯である。ラグ氷河は舌端の湖とともに谷のラグ村から一望できるので数多くの写真が公開されているが、姿を明瞭に現わしているピークはKG-12(Gongyada 6423m)、KG-13(Zeh 6127m)、KG-18(Gemsongu(6525m)およびKG-19(Hamokongga 6260m)などである。ラグ氷河に接する崗日嘎布山群主稜線の山々はデモラ(徳母拉,Dema La)付近の街道筋から遠望できる。松本徃夫氏、中村保氏、渡部秀樹氏らの写真に加えてACKU2009遠征隊の写真などが解明に重要な情報を提供してくれる。

◆ピークリスト

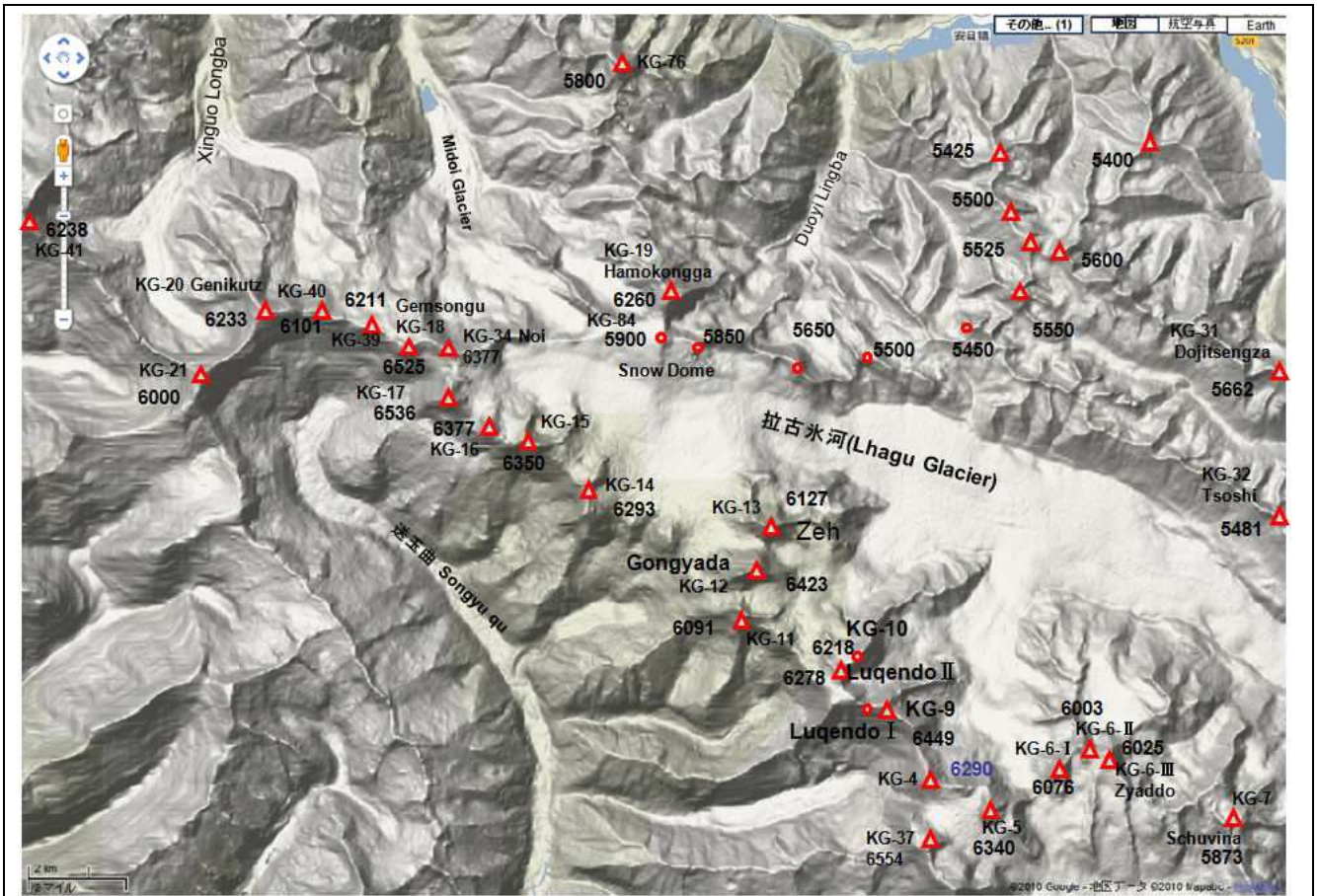
表-1に拉古氷河流域の顕著なピークの一覧を示す。拉古氷河流域は6000m峰が21座確認できる。表中の標高-2に標高が示されているピークは既存の松本徃夫氏作成の地図に示されているピークで、標高が記入されていないものはその存在が明らかにされていなかったものである。山座同定を進めた結果、いくつかの発見と詳細結果が得られているので以下に述べる。

表-1 拉古氷河(Lhagu Glacier)流域の山々

NO	Peak ID	標高 1	標高 2	名前	記述
----	---------	------	------	----	----

1	KG-4	6290	6290		松本地図 6290
2	KG-4-II	6200	-	Twins	顕著な双耳峰につき愛称とした ASTER 標高
3	KG-5	6340	-		ACKU 発見
4	KG-6-I	6076	-		ACKU 発見 ASTER 標高
5	KG-6-II	6003	-		ACKU 発見 ASTER 標高
6	KG-6-III	6025	5903	Zyaddo	ASTER 標高 6025 松本地図 5903
7	KG-7	5873	5699	Schuvina	ASTER 標高 5873 松本地図 5699
8	KG-9-I-1	6449	-	Luqendo-I	ASTER 標高 6449
9	KG-9-I-2	6350	-		Luqendo-I Minor Peak-1 ASTER 標高
10	KG-9-I-3	6306	-		Luqendo-I Minor Peak-2 ASTER 標高
11	KG-10-I	6278	6390	Luqendo-II	ASTER 標高 6278 松本地図 6390
12	KG-10-II	6218	-		Luqendo-II Minor Peak ASTER 標高
13	KG-11	6091	-	Hiqen-III	ASTER 標高
14	KG-12	6482	6423	Gongyada	別名 Hiqen-I ASTER 標高 6482 松本地図 6423
15	KG-13	6177	6127	Zeh	ASTER 標高 6177 松本地図 6127
16	KG-14	6293	-		
17	KG-15	6350	6321		ASTER 標高 6350 松本地図 6321
18	KG-16	6377	-		
19	KG-17	6536	6606		ASTER 標高 6536 松本地図 6606
20	KG-18	6525	6450	Gemsongu	ASTER 標高 6525 松本地図 6450
21	KG-19	6260	6260	Hamokongga	別名 Dojizangdoi
22	KG-31	5662	5662	Dojitsengza	岩峰 聖山
23	KG-32	5298	5298	Tsoshi	岩峰 聖山
24	KG-34	6377	-	Noi	
25	KG-114	5480	-		Insel Peak

(注-2) 標高 1 は井上推定値 標高 2 は旧ソ連の地図または松本徂夫氏地図標高



地図-1 拉古氷河(Lhagu Glacier)流域のピーク

◆ KG-6 周辺について

KG-6 は拉古氷河と阿扎氷河の分水嶺を構成する 3 つの顕著なピークを持っていることが ACKU2003 年の



記事

1. 拉古村からはZyaddo III峰(6025m)が見えるのみで I 峰(6076m)と II 峰(6003m)は知られていない
2. KG-5とKG-6 Iの間はAta氷河とLhagu氷河の峠(5500m)
3. ☆5050m: Kangri Garpo Mountains East撮影ポイント (KG-22 23 24 25 26 27などの望遠写真撮影)

写真-1 阿扎氷河(Ata Glacier)と拉古氷河(Lhagu Glacier)の分水嶺

阿扎氷河からの観察・写真とシルバータートル隊 2006 年の拉古氷河からの写真より明らかになった。拉古村からは Zyaddo と松本氏が同定しているピークを旧ソ連の地図にある 5903m 標高点としているが、ASTER や Google Earth の地形と旧ソ連の地図の緯経度を比較すると明らかに位置が異なる。衛星のデータから導き出した結果、KG-6 は KG-6- I

(6076m)、II(6003m)、III(6025m, Zyaddo)とした。

◆KG-9,10 Luqendo について

シルバータートル隊 2006 年は拉古氷河を遡り KG-84(5900m)のスノドームに登り崗日嘎布山群主稜線の

数々のピーク写真を得ている。彼らの報告に使ったスケッチ地図に Luqendo が記されているが山名について詳しい記述はないので出所は定かでない。松本氏は KG-10(Luqendo-II)に単に 6390m の標高を記して名前は記されていない。松本氏の地図には一つのピークのみ記されているが、多数の写真から分析すると KG-9から 10に繋がる稜線には表-1 に示すように 5 つのピークを確認することができる。

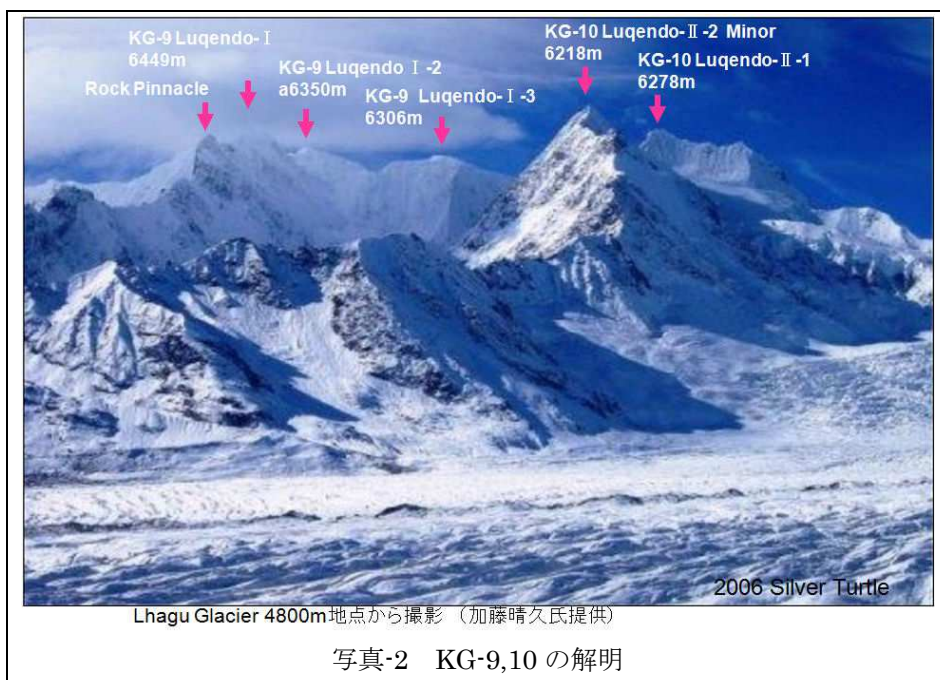


写真-2 KG-9,10 の解明

◆ Lhagu Glacier の最高峰は?

崗日嘎布山群で最も登りやすい 6000m 峰はどれか?と聞かれたら KG-6 と即座に答えられる。では主稜線ではどれか?と聞かれると答えはロプチン峰(Lopchin 6805m ACKU 2009 年初登頂)峰であろう。それでは次に登頂できそうなピークは?

と聞かれるといずれも鋭く尖った頂稜を持っているので答えが難しい。盟主ルオニイ峰がきわめて危険性の高いピークであり、それと比較すると KG-3 や KG-17、KG-18(Gemsongu)あたりが可能性を持っている



写真-3 拉古氷河源頭の間々。最高峰はどれか?

ように思える。拉古氷河を対象を求めるとその最高峰に注目したくなる。では拉古氷河の最高峰はどれか?これに答えが出ていない。おそらく KG-17 または 18 であろうと考えている。松本氏の地図では KG-17 が 6606m で最高峰だが、松本氏もこの標高には高すぎるとの意見であった。ASTER の標高を参照すると表-1 のように KG-17 は 6536m、KG-18(Gemsongu)は 6525m である。この程度のデータの差異では KG-17 の方が高いとは断言できない。Gemsongu は従来の標高が 6450m とされていたので 86m も高いデータが得られているので実際がどうなのか興味がつきない。

◆岩峰 Gongyada

拉古村から氷河を眺めるとモレーンが横る縞模様と右岸に聳える Gongyada(KG-12)及び Zeh(KG-13)の姿に引き付けられる。昨今のクライマー達には格好の登攀対象であろう。各国から登山申請が出されているが、今日まで許可は出されていない。時には真っ白に積雪に包まれ、また晴天が続くと黒々とした岩肌を持つ姿は挑戦的に天空に胸を張っているように見える。朝日に照らされて黄金色に輝くときには崇高なる神を思わせる。

KG-12(Gongyada)は東岩稜に登攀ルートを見出すことができそうだ。標高は従来 6423m とされているが、ASTER では 6482m を得た。59m 高い。

このグループには KG-11(6091m)、KG-12(Gongyada,6482m)及び KG-13(Zeh,6127m)の 3つのピークがあるが KG-11 は拉古からは見ることができない。



写真-4 KG-11,KG-12



写真-5 KG-11 と KG-12(Gongyada 右)

◆阿扎氷河源頭から Gongyada へ続く 崗日嘎布の主稜線

KG-4(6290m)から Zyaddo の稜線がどのように分岐していくのか、松本氏との議論(注-3)が懐かしい。

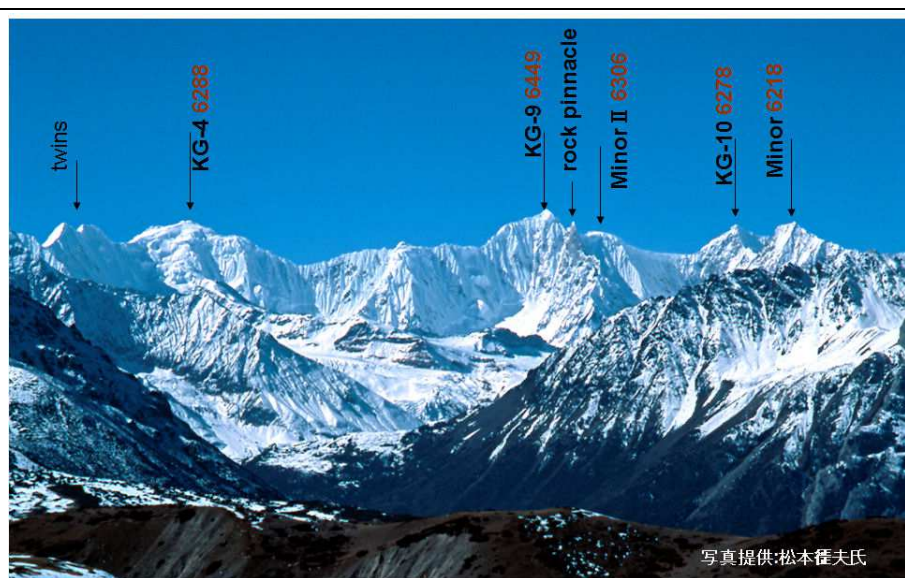


写真-6 崗日嘎布の主稜線 KG-4 から KG-10

KG-2,KG-3,KG-37,KG-5 の存在は松本氏等には認識されていなかった。阿扎氷河源頭に小さな High-Plateau(高所氷原)が存在することが解明されていなかったためである。

(注-3) 松本徂夫編著「ヒマラヤの東 崗日嘎布山群」権歌書房 P161 に KG-37(④6443m)ピークから Zyaddo に稜線が続いているようにスケッチされている。また、④は KG-37 ではなく、

KG-5 であり、KG-37 はこの写真の位置からは尖った頂上部分がわずかに見え隠れするが、松本氏等は認識していない。また、KG-37 は ASTER では 6554m であり、KG-4,5 とはプラトーで分断されている。Zyaddo 稜

線は KG-5 から分岐していることが、ACKU2009 年の Lopchin 登攀中に明確に確認された。



写真-7 KG-37はプラトーを隔てて KG-4 と対峙している



写真-8 Zyaddo 稜線は KG-5 から右手の Ata-Lhagu Pass を経て派生している

◆拉古氷河奥のピーク

崗日嘎布の主稜線は氷河によって何ヶ所か分断されている。南東からまず奥アタカンラ(Upper Ata Kang La)続いてアタカンラ(Ata Kang La)そして南北に分かれて流下する阿扎氷河(Ata Glacier)の Shana Ice Fall。



写真-9 Lahagu Glacier Upper Ice Field を囲むピーク

次にすでに述べた阿扎氷河源頭の Divide Plateau が最も標高の高い分断地点である。そして KG-12 から KG-13 に続いた主稜線が拉古氷河の Upper Ice Field で分断されている。すなわち、KG-13 から KG-14 には稜線が続いていない。Ice Field からは北流が拉古氷河の本流に合流するとともに南流が KG-114(Insel Peak, 5480m)にて2分されて Songyu Qu の深い溪谷に Ice Fall となって落下している。これらの地形は降雪量の多いことを表している特長ある現象であろう。主稜線は KG-14 から再び高

度を上げて KG-16,17,18 へと続く。KG-17 からは KG-34(Noi)に稜線が続いているのか、KG-18(Gemsongu)



写真-10 美しい Insel Peak



写真-11 KG-17 登路はあるか

に繋がっているのか、微妙なところである。稜線が KG-34 に繋がっているとすれば KG-18 は拉古氷河源頭の

ピークではなく米堆(Midui)氷河の盟主となる。KG-17 が拉古氷河の源頭で盟主となるが、判定には現地での確認が必要だ。



写真-12 モレーンの縞模様が見事な拉古氷河(Lhagu Glacier)、左奥は KG-19(Hamokongga 6260m)

◆聖山 Dojitsenza と Tsoshi

然烏(Rawu)から未舗装の道をドライブして拉古(Lhagu)に近づくと右手に鋭い岩峰が現れる。

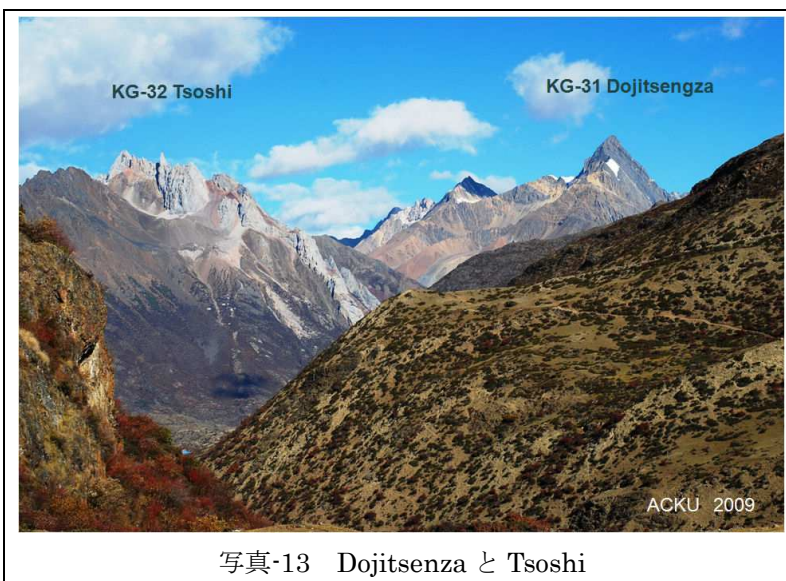


写真-13 Dojitsenza と Tsoshi

KG-31(Dojitsenza,5662m) と KG-32(Tsoshi,5298m)である。これらはシュデンゴンパの聖山として村人たちに親しまれている。

最後に、現在拉古氷河流域の 6000m 峰はすべて未踏峰のまま人類に頂を明け渡していない。

(2012年11月28日)